松岡（まつおか） 昌樹（まさき）さん（30歳） 愛西市塩田町

先輩たちに学びながら成長していきたい

松岡さんは就農して今年で2年目を迎えます。もともと鉄道路線の保全を行う仕事をしていましたが、それまで管理をしてもらっていた農家さんから実家の農地が返却されたのをきっかけにレンコンの栽培を始めました。「最初は父親の手伝いでしたが、農業の魅力を感じ、専業でやりたいと思ってJAで就農の相談をしました。今では勤め人の父に代わり、自分が中心になってレンコン田の管理をしています」。

農業の魅力について伺うと「育てたものに対して対価がもらえるところです。ベテランの人と比べれば、技術も知識も追いついていないですが、手間をかけた分だけ収量や品質としてかえってくるので、それがモチベーションになります」と話します。松岡さんは昨年40アールから栽培を開始。今年はJAの農地中間管理事業を利用したことにより、ある程度のほ場が集約され、140アールまで規模を拡大しました。「より効率的に作業ができるように、県の補助事業と農業融資を活用し、新しい機械も導入しました。申請の際にはJA職員のサポートにも助けられました」。これからも面積を増やしていきたいと意気込みを語ります。

就農してからの苦労について伺うと、種レンコンの定植作業に苦労していると話す松岡さん。レンコンはその年に収穫したものを選抜し、次期の種レンコンとします。「昨年の分は管理を任せていた農家さんにお願いしていたので、種レンコンを収穫する作業は今年が始めてでした。傷つけないように収穫するのも大変ですし、植え付けてもヌートリアやカモに食べられることがありました。来年はネットを張るなどの対策をしようと考えています」。

部会に入り本格的に出荷を始めてからは、学びが増えたと話します。「れんこん産地協議会という栽培について専門的な知識について学べる部会の勉強会もありますし、農業簿記についてはJA職員の方に支援してもらいました。もちろん、知識や技術の共有だけでなく、実際の作業についても部会員で助け合っています。今年からは水掘りでの収穫に挑戦する予定ですが、作業に必要な機材を先輩農家さんに組んでいただきました」。昨年は鍬を使って収穫をしていた松岡さんですが、今年は出荷初期に収穫できる金澄という品種を導入。それに伴ってポンプを用いる水掘りで収穫を行います。

最後に消費者の皆さんに向けて「毎年学びながら、美味しいレンコンを作れるよう頑張っていきます」とメッセージをいただきました。松岡さんのレンコンは8月から出荷が始まる予定です。